

令和3年度 卒業式 式辞

中庭の桜も芽を出し、いよいよ秋竹小学校にも希望いっぱいの春がやってきました。本日、卒業されます二十名の皆さんに心よりお祝いの言葉を申し上げます。

ご卒業、おめでとうございます。

この素晴らしい日に、あま市教育委員会教育部長吉川 誠（よしかわ まこと）様始め、ご来賓の皆様にご臨席を賜りましたことを 高い席からではございますが 謹んでお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今年も新型コロナウイルスの感染状況をふまえ、今まで当たり前のように行っていた学校行事一つ一つを、工夫して実施しなければならない一年でした。五月の運動会は、感染対策のため、例年よりも種目を精選しての実施でしたが、その中でも、秋竹小学校の伝統である「なかま活動」の競技をはじめ、運動会全体で発揮した皆さんのリーダーシップは素晴らしいものでした。入学してまだ間もない一年生をはじめ、下級生にていねいに接する姿をみて、皆さんが「なかま活動」を通して培ってきた力の大き

きさを実感すると同時に、頼もしさを感じました。また、秋の学習発表会では、「戦国時代へタイムスリップ」と題して、社会科で学習した内容を創意工夫を凝らして発表をしていただきました。発表内容からは、お互いの意見を出し合い、さらに高めていくことができるように努力をした様子が伝わってきました。

私が特に皆さんに感心したことは、常に人への思いやりを忘れずに行動できたことです。登下校で、下級生の安全に配慮して歩いていた姿がありました。下級生が困っている姿を目にしたときに、そっと手を差し伸べるやさしい姿もありました。当たり前のことと言われるかもしれませんが、こうした一つ一つの行動を大切にする皆さんの姿を、下級生の皆さんはしっかりと見ていたはずです。そして、これからの新しい秋竹小学校の伝統をつくり上げていくはずです。下級生によきお手本を示していただいた皆さんには、心よりお礼を申し上げます。

皆さんの門出にあたり、二つのことをお伝えしたいと思います。

一つ目、困難なことがあっても努力を惜しまない人になってください。皆さんには、輝かしい未来があると思いますが、そこに至る過程で、予測するこ

とが不可能な、さまざまな困難なことがあるかもしれません。

昨年、日本でオリンピック・パラリンピックが行われました。無観客で行われた大会ではありましたが、私たちはこの大会から多くのことを知り、学ぶことができました。紛争や迫害により故郷を追われ、さまざまな困難を生き抜き、必死に練習をしてオリンピックへの出場を果たした選手の皆さんがいました。心身の障害に悩みながらも、目標に向けて努力をする気持ちを失わずにパラリンピックへの出場を果たした選手の皆さんがいました。選手の皆さんから私たちが学ぶべきことは、困難があってもすぐにあきらめるのではなく、目標に向けてできる限りの努力をする姿勢なのではないかと思います。何事にも努力をし続ける気持ちを一生もち続けたいと思います。

二つ目、一人一人のよさをお互いに認め合い、自信をもって行動できる人になってください。

人はそれぞれ、得意なこと、苦手なことがあります。性格もさまざまです。皆さんは将来、多くの人に出会うと思います。自分とは性格が違う人、考え方が違う人に出会うことも多いと思いますが、たくさん話をするすることで、相手のよい点が必ず見えてくるとと思います。私たちは、一人だけでは決して生き

ていくことはできません。お互いが助け合う場面が必ず出てきます。そんな時、お互いのよい点を認め合い、自分の持ち味を自信をもって発揮することで、問題を解決する場面がきっとあると思います。皆さんには、相手のよさを認めつつ、自分に自信をもって行動し続けることを願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。お子様がここまで立派に成長されたのも、ご家族の支えがあったからこそと思います。どうぞこれからも子どもたちの一番の応援団でいてください。

私たち秋竹小学校の教職員一同も、卒業する皆さんの今後の活躍と幸せを心より願っています。どうか、本校の卒業生であることに誇りをもって、未来に向かって 力強い一歩を踏み出してください。

令和四年三月十八日

あま市立秋竹小学校長 山田 洋暢